青少年児童センターだより　8月の事業

※幼児については、保護者同伴でお願いします。
必ず上靴を持ってきてね！

■所在地：向野3-1-33 ■TEL：952-0032 ■FAX：937-8580

日	時　間	事業名	内　　容	定　員
8月 4日(土) 18日(土) 25日(土)	15：00 ～ 17：00	子ども広場	**「将棋広場」** ～初めての人・少しでも興味を持った人は、気軽に参加してください～ 対　象：おおむね小学１年生～６年生 ※開催日が変更になる場合があります。	な し

夏休み子どもおもしろ教室

※対象は幼児（必ず保護者同伴）と小学生（難易度によっては保護者同伴）です。
難易度（★初級　★★中級　★★★上級）を参考にお申し込みください。

※申し込み受付は、８月１日から（９:00～17:00、日・祝は除く）**電話のみで受付けます。１人１教室の申し込みとします。**ただし、**開催日１週間前の時点で定員に空きがある場合は、追加で申し込みしていただけます。**また初日は１教室のみの申込みとします。先着順のため定員になりしだい締切ります。

サンドクラフト

開催日	時　間	定　員	内　　容	参加費
8月 7日(火)	14：00～15：30	20人	**万華鏡**　(★)（１年生は保護者同伴）覗くと不思議な世界が広がります。	250円
8月 8日(水)	14：00～15：30	20人	**作って遊ぼう**　(★)（１年生は保護者同伴）飛行機とブーメランを作ります。※はさみを持参してください。	無　料
8月 9日(木)	Ⅰ部：14：00～15：00 Ⅱ部：15：00～16：00	2部制　各15人	**プラ板**　(★)（１年生は保護者同伴）白色のプラ板に好きな絵を書いてオリジナルキーホルダーを作ろう。※自分の書きたい絵の見本・はさみを持参してください。	無　料
8月10日(金)	14：00～15：30	15人	**簡単クッキング**　(★★)（対象：小学生。１～２年生は保護者同伴）ふわふわな蒸しパンを作ります。※エプロン・三角巾を持参してください。	100円
8月21日(火)	14：00～ 16：00	15人	**まがたま**　(★★★)（１～２年生は保護者同伴）滑石を削って磨いて作品を仕上げます。根気が必要です。※タオル・着替え（必要な人）を持参してください。	100円
8月22日(水)	Ⅰ部：14：00～15：00 Ⅱ部：15：00～16：00	2部制　各20人	**スライム**　(★)ホウ砂水を混ぜたらあっという間に出来上がります。	無　料
8月23日(木)	14：00～15：30	15人	**簡単クッキング**　(★★)（対象：小学生。１～２年生は保護者同伴）さつまいものあんを餃子の皮でつつんで揚げます。※エプロン・三角巾を持参してください。	100円
8月24日(金)	14：00～16：00	20人	**サンドクラフト**　(★★★)（１～２年生は保護者同伴）砂をキレイな色に染めて作品を作ります。※タオルを持参してください。※作品の乾き具合により翌日以降の持ち帰りとなる場合があります。	250円
8月28日(火)	14：00～15：30	20人	**発射台つきロケット**（★★）（１年生は保護者同伴）ペットボトルのバネでロケットを飛ばします。※はさみを持参してください。	無　料
8月29日(水)	14：00～15：30	20 人	**ピンポンキャッチャー**（★★）（１～２年生は保護者同伴）ペットボトルでボールを飛ばします。※ハサミを持参してください。	無　料

サラダボール

「東日本大震災、人権相談491件、避難先で差別やいじめ」

今年の３月初め、このような新聞記事があった。

法務省の人権相談などに寄せられた東日本大震災関連の相談件数が、昨年末までに491件に上った。法務省人権擁護局によると、相談内容は、家族で避難している知人宅で文句を言われるなど「家族などに関する相談」が85件、東北ナンバーの車が駐車拒否されるなど「名誉・風評に関する相談」が45件に上るそうだ。被災者が避難先で差別やいじめを受けるケースもあり、地方機関の法務局などが人権侵害の疑いがあると判断した29件については具体的な救済手続きを行ったそうだ。

また、震災後の昨年春にインターネット上で次のような書き込みがあった。

「他の県は、地震や津波の被害だけ。私たち福島県民はさらに原発や風評被害を受けています。避難すれば県外の人にひどい目にあわされ、私たちはどうすればいいんですか？地震や津波の天災のせいで原発事故が起きただけで、それがたまたま福島県ってだけで、私たちは何もしていません。」

原発事故を機に引き起こされた新たな差別や風評被害。被災地から避難する住民に対して、同郷の住民から「逃げた」と言われることもあるとのこと。それでも、避難地で望郷の思いを持ち続けながら、日々の生活を維持しようと懸命に働く姿が報道されている。

多くの国民はボランティアや義援金の形で被災地を応援している。その一方で、同じ国民が、東北物産を避ける。何か捉えようのない不安からくる感情に左右されているのであろうか。信頼のおけるデータをもとに冷静に科学的に分析し、根拠のない思い込みや偏見を持ちこまず、地域を復興していくことが重要なのは明らかではないか。

被災者にとっての真の復興は、共に助け合うことのできる人の繋がりが生まれ、さらに、社会と自分が繋がっているという実感が持て、生きていく希望と勇気ができたときであろう。

差別は、これからもいつ、どこで、どんな形で生まれてしまうのかわからない。一時の応援で満足するような支援ではなく、他者の苦しみを自分のことのように感じ取れる心の深さと、物事の本質を冷静に判断し、継続した行動ができる・・・。そんな支援が求められていると改めて感じる。

2012年８月に震災後２回目のお盆を迎えるが、復興にはまだまだ時間がかかることを我々は忘れてはならない。